

11月 November

味覚の秋ですね。この時期、旬を迎える果物もいろいろあります。柿やリンゴは一日一個食べれば医者いらずと言われるぐらい栄養価に富んでいます。上手に摂って、来たる冬に備えたいですね。つつい植物も「おいしそうなもの」に目が行ってしまいます。「老爺柿」と書く観賞用の柿（食用ではありません）を中心に、秋らしい色合いとデザインでまとめてみました。注目ポイントは、柿を食べたそうに見上げる犬！こんな可愛いアクセントで、鉢の中にストーリーを作るのも楽しいですね。

■ロウヤカキ



実のなる盆栽の中でも人気があるロウヤカキ。漢字で書くと、「老爺柿」または「老鴉柿」。中国原産です。4月頃に花を咲かせて10月～11月頃にオレンジ色の実をつけます。実の大きさは1.5～3.5センチぐらい。日当たりと水はけのよい場所を選べば庭植えも可能です。毎年実をつけるのは意外と難しいようです。



■アナスタシア



アナスタシアというロシアの皇女の名前がついていますが、日本人には馴染みの深いキクの種類です。通常、鉢植えのキクを差してポットマムと言い、比較的小花のタイプがよく出回っていますが、このアナスタシアは切り花としてブーケやアレンジにもよく用いられる、大変華やかな品種です。



■ミセバヤ



ベンケイソウ科の耐寒性多年草。原産地は日本と中国です。10～11月頃に紅色の小さい花をボール状にまとめて咲かせます。さらに特徴的なのは赤く縁取られた丸い葉で、秋になると次第に紅葉します。その後、いったん枯れて芽だけ残して冬を越します。「ミセバヤ」という名前は、「誰かに見せたい」という意味の言葉が変化したものだそうですよ。



■苔玉

今回アクセントに使った、動物の苔玉。犬とうさぎとクマが並んでいます。

苔玉のお手入れは水やりが重要です。少なくとも一日1回、霧吹きなどで全体にしっとりした状態にしてあげること。水をはった器に全体をちゃぽんと浸けてあげると尚オッキーです。直射日光がキツイ場所であれば屋外でも管理できます。



寄せ植え例



ポイント

中央にロウヤカキを植え、奥に黄色と紫のアナスタシアを1本ずつ。手前にグランドカバー的にミセバヤを入れます。アクセントの動物はお好みで。陶器やピックでもいいですね。

管理

日当たりのよい、風とおしの良い場所を好みます。ただし苔玉は直射日光を嫌いますので、植物の影になるように置くなど注意が必要です。